

# 「授業スタンダード」チェックシートを基にしたアンケート調査結果

学力向上訪問支援チーム

## 1 調査の目的

授業の質の向上を基軸とした学力向上を図るため

## 2 調査対象

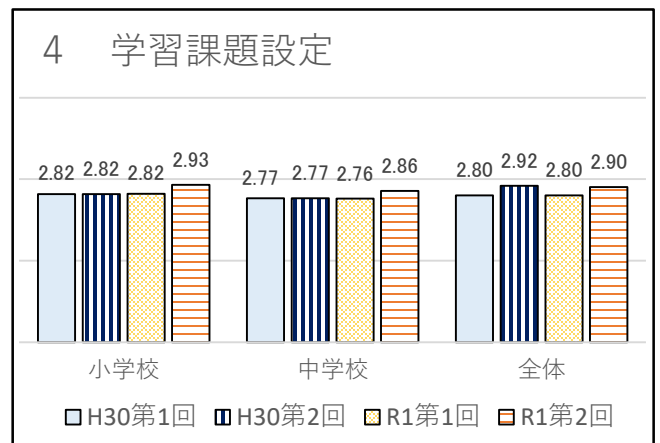
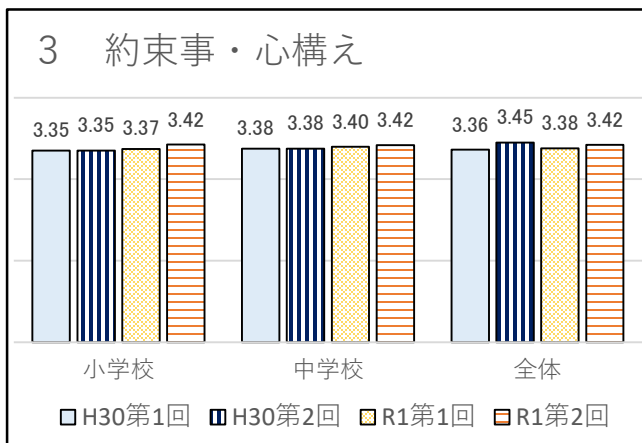
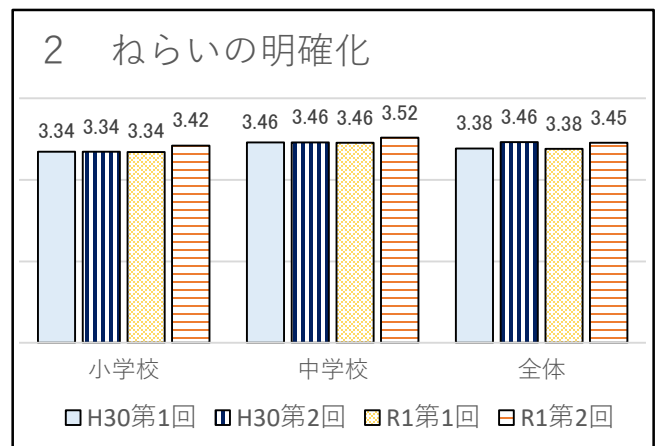
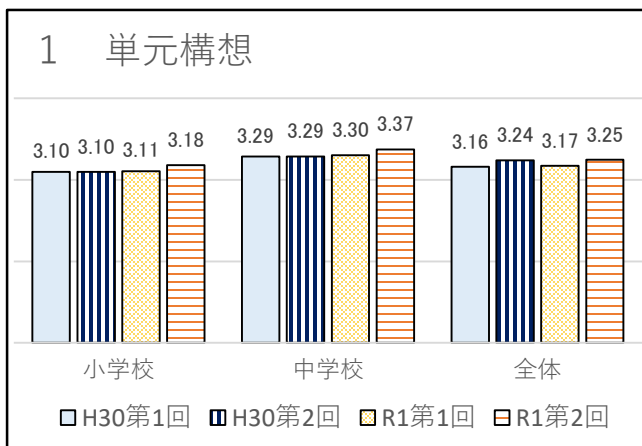
県内全ての小・中学校（義務教育学校を含む。）の「授業スタンダード」を活用して授業を行っている教員

## 3 実施時期

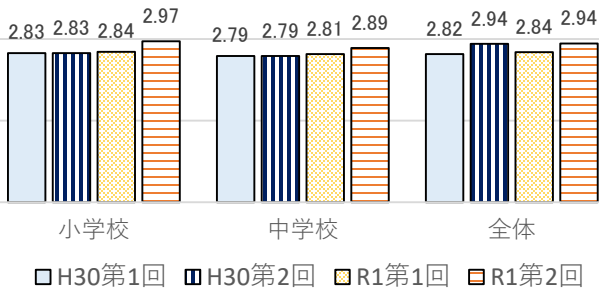
|        |     |         |     |         |
|--------|-----|---------|-----|---------|
| 平成30年度 | 第1回 | 平成30年7月 | 第2回 | 平成31年1月 |
| 令和元年度  | 第1回 | 令和元年7月  | 第2回 | 令和2年1月  |

## 4 アンケート集計結果

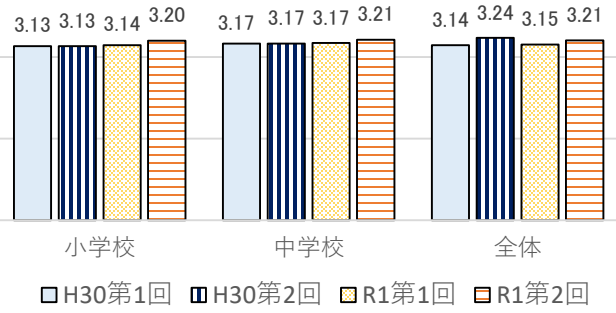
<授業の充実のために>



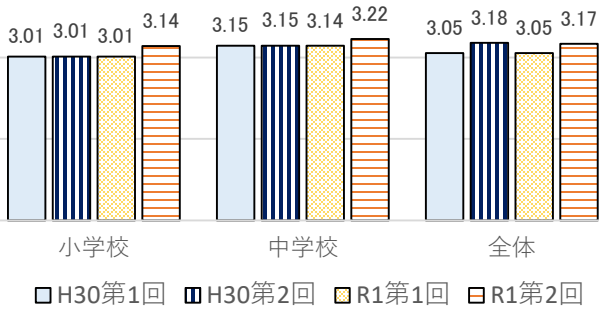
## 5 追究・解決の見通し



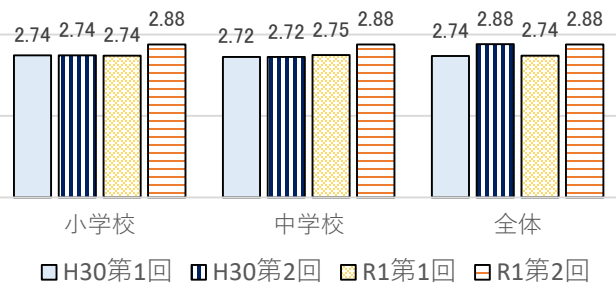
## 6 机間指導での見取り



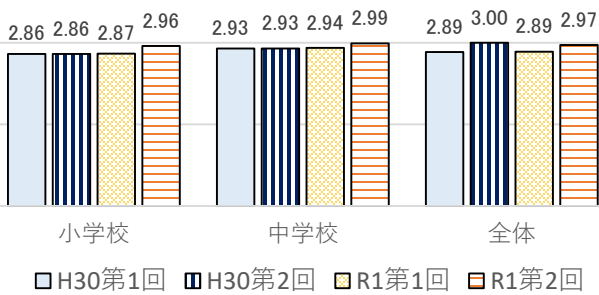
## 7 ペア・グループ学習



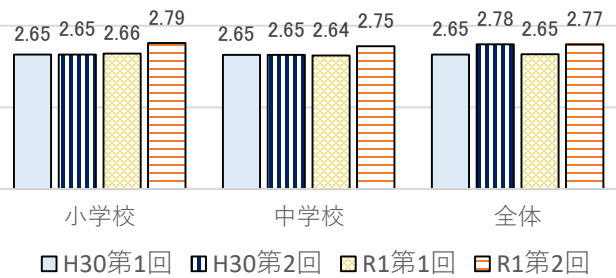
## 8 話し合いのコーディネート



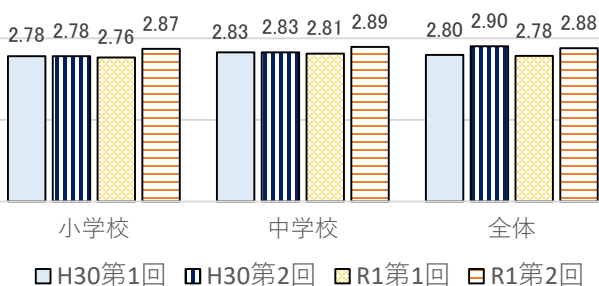
## 9 振り返りの工夫



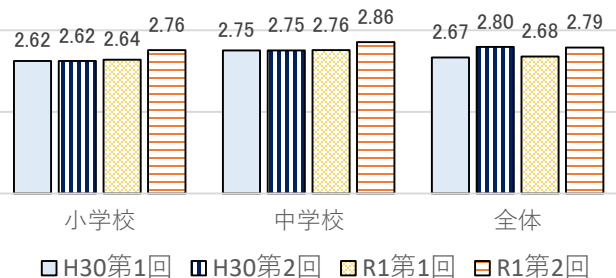
## 10 新たな学び



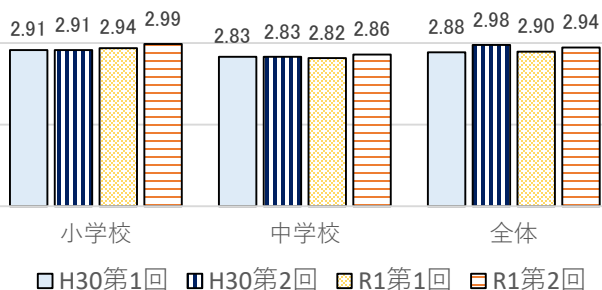
## 11 構造的な板書



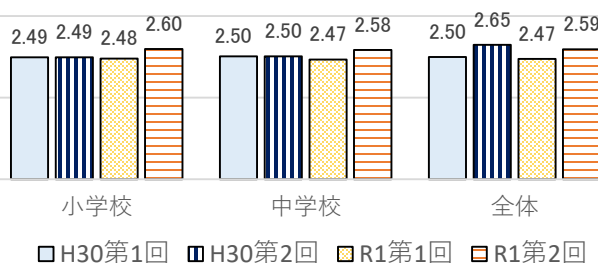
## 12 精選された発問



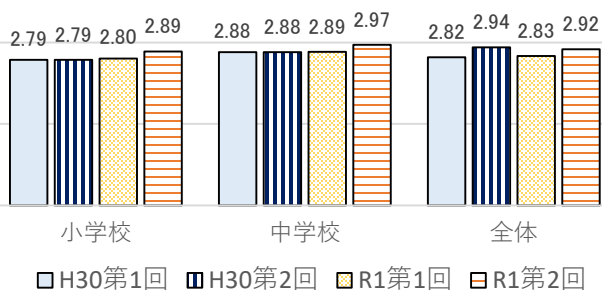
### 13 ノート指導



### 14 全国学力・学習状況調査



### 15 記述内容の明確化



#### 傾向と課題

どの校種も、平成30年度、令和元年度ともに、第1回目より第2回目のほうが自己評価のポイントが上昇している。ポイントが低い項目は、小学校では、「新たな学びに目を向けさせること」、「吟味し精選された発問をすること」、「全国学力・学習状況調査を活用すること」である。中学校（県立中、義務教育学校を含む。）では、「新たな学びに目を向けさせること」、「全国学力・学習状況調査を活用すること」である。

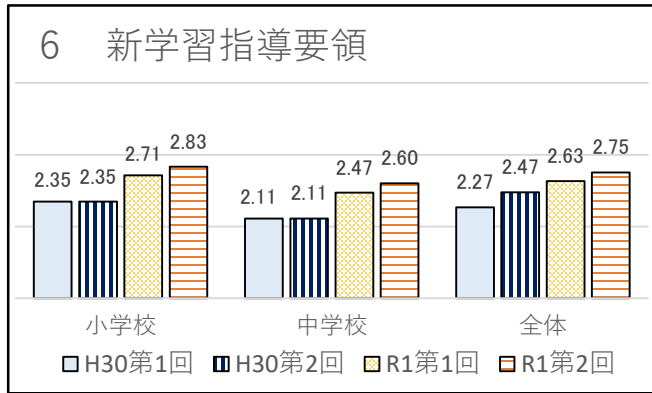
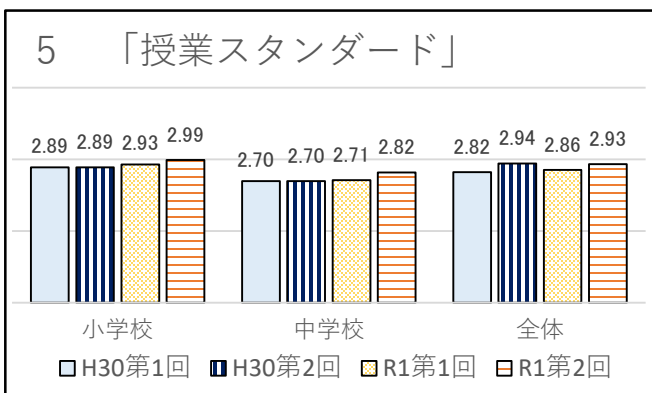
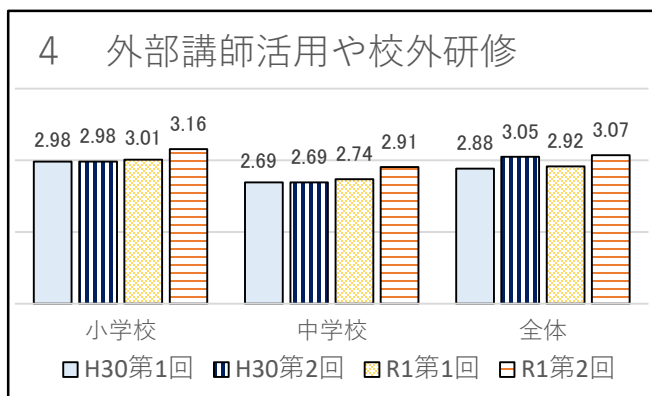
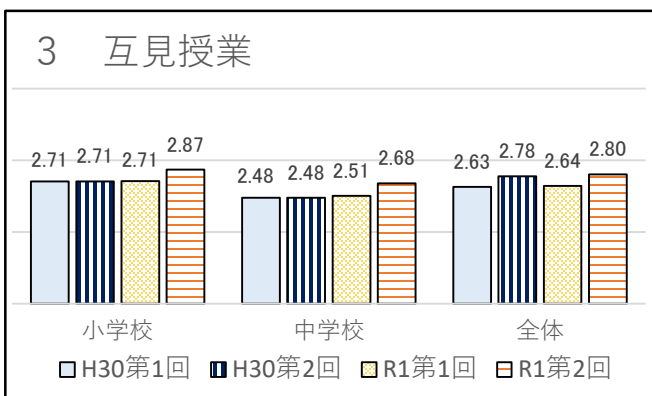
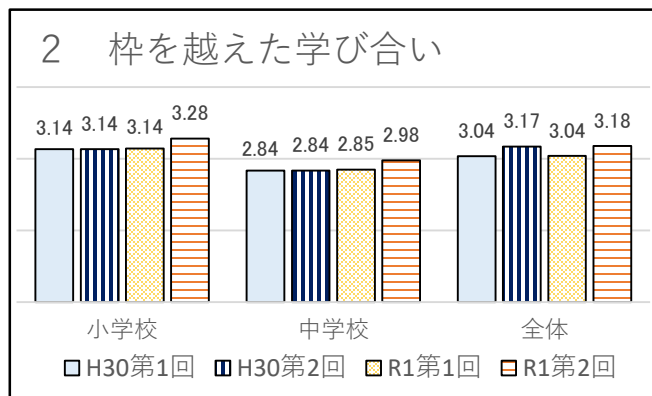
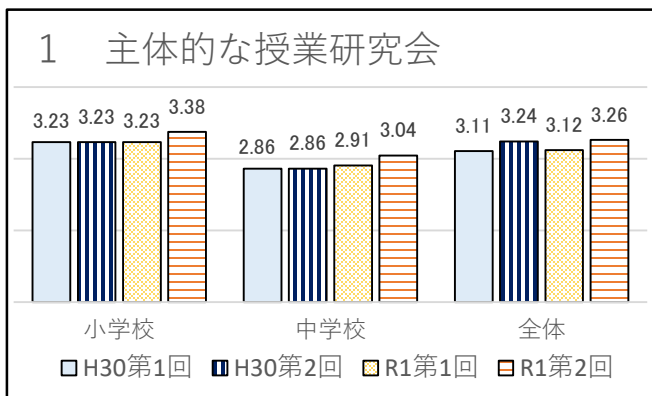


#### 改善のポイント

##### <授業の充実のために>

本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫するとともに、新たな学びに目を向けさせるような、学びの連続性を意識した学習サイクルを意識していくことが大切である。今後は、活用力育成シートや全国学力・学習状況調査の問題を単元計画や授業に適切に位置付けることで、より一層児童の思考力、判断力、表現力等を育成・評価するために活用することが大切である。さらに、学習したことを児童生徒に自覚させ、次時につながる気付きや疑問を促す発問や、新たな「問い」や「思い・願い」を引き出す教材の提示など、新たな学びへの意欲付けを図る手立てを講じることも大切である。

## <校内研修の活性化のために>



### 傾向と課題

どの校種も、平成30年度、令和元年度ともに、第1回目より第2回目のほうが自己評価のポイントが上昇している。ポイントが低い項目は、「互見授業を実施すること」、「新学習指導要領について研修をすること」である。



### 改善のポイント

<校内研修の活性化のために>  
 新学習指導要領の理解をさらに確かに行うことが大切である。また、互見授業を行うなどして授業改善の方途について確認・共有することが大切である。その際、教科や学年の枠を越えて、児童生徒が授業でどんな学びをしたのかを見取り、共有することも大切である。